

最後の一息は ありがとうで

今原ポール

ラスベガスに住んでいた頃、若い米国人から「佛教とは何か」と聞かれた事がありました。佛教とは「宗教であり、哲学であり、私たちの生き方である」と答えました。それでは少し足りないだろうと思い「無我」について説明をしました。ちょうどタマネギのように多くの皮でもって守っている自分がいて、そのタマネギの皮を一枚一枚はいでゆくと何が残るでしょうか。私たちの一枚一枚の皮とは、自分の名前、生い立ち、家族、学歴、名誉、財産、プライド。そんなものを一枚一枚はいでゆくと何が残るのだろうか。自分を

素っ裸にしてしまうと自分自分と思っている自分も無くなる、それを「無我」というと説明したらその若い米国人は、そんな話しは聞きたくない、怖いと云われました。まったく素直な返事であったなと思います。無我といいながら、私は本当に無我の境地を理解しているのだろうか。無我とは自分を素っ裸にする事だと思ふ。でも自分を素っ裸にできない。本当に無我の境地に入る事ができるなら、自我も無くなる。親鸞は正信偈で不断煩惱得涅槃と言っておられる。煩惱を無くさなくても涅槃、お浄土にいる様な生き方が出

来ると。ではお浄土にいる様な生き方とはどんな生き方なのか。それは、あるがままの人生を生きることでしょう。人と自分とを比較しない、人の目、世間の目に振り回されない事でしょう。でもそんな事自分に出来るの？ 親鸞聖人はただ念仏するだけだと、それなら私にも出来る。昔のお話になりますけれども、とても寒い朝早くゴルフをいっしょに始めたとき、斉藤輪番が自分のオムツが冷たいといった一言、これが素っ裸になることでしょうか。無我とはこういうことでしょうか。

“なんにもない”との返事でしたとお聞きした事を憶えております。河和田先生が自分の師として仰いだ方からの最後のひと言としてはチョット淋しいなと思いましたが、でも最後に出る声にならない声は「ありがとう」というお念仏だったように私は思います。その時に「何か言い残す言葉は」と聞かれると念仏以外には「なんにもない」と出た御言葉のように感じられます。とても深い感

(3 ページに続く)

行事予定

三月

二十七日 日曜礼拝
三十日 ご命日法要

四月

三日 祥月法要
三日 仏教連合会
花まつり
十日 日曜礼拝
十日 伊東憲昭輪番勤
十七日 花まつり

続四十周年のお祝い

二四日 日曜礼拝
二四日 花まつり
二七日 ご命日法要
三十日 同朋リトリート

花まつり

仏教連合会花まつり

四月三日 (日)

別院花まつり

四月十七日 (日)

クラフトフェア

四月二四日 (日)

別院ニユース

別院花まつり

今年は二月のお終わりから別院境内の桜が咲きロサンゼルスに早い春が来ました。花御堂が飾られる「花まつり家族法要」は四月十七日午前十時より勤まります。

お釈迦様の誕生をお祝いするこの法要では赤ちゃんの頃のお釈迦様の像（誕生仏）に甘茶を注ぎます。今年も花御堂のため凡夫太鼓グループがお花を寄贈して下さいます。

花いつぱいの法要にどうぞお参りください。

クラフトフェア

出店募集

二〇一六年四月二十四日、午前十時から午後三時まで別院花まつりクラフトフェアを開催いたします。出店希望の方は東本願寺別院 213-626-4200 までお電話下さるか info@hhbt-la.org まで email をお送り下さい。出店申込の締切は三月二十五日です。

仏教連合会 花まつり

ロサンゼルス仏教連合会主催の花まつりは四月三日午後一時より日米文化会館において開催されます。

今年のテーマは「経…いのちの糸」です。経とはサンスクリット語でストーリーと言います。「糸」を意味します。花を糸で繋ぐと花輪になり、珠を糸で繋ぐとお数珠になるように、お釈迦様のお言葉が結ばれつながり、一つの体型として詠まれているものが「お経」です。二千五百年が経つた今も時代や国、世代や文化を超えてお釈迦様の教えが伝わっています。

そこで今年のアートコンテストのテーマは家族を結ぶ絆の糸ということで「家族」です。

お釈迦様の誕生をお祝いするとともに、私たち自身の誕生について考える大切な機会でもあります。八ヶ寺の僧侶による合同の花まつり法要の後には、アートコンテストと共にこ

ども達の 演劇をお楽しみ下さい。どうぞお子様連れでお参り下さいませ。

お問い合わせはロサンゼルス別院 (213-626-4200) またはロングビーチ仏教会 (562-426-4014) までお願いします。



ご命日法要

(毎月最終水曜日)
毎月月末の水曜日午後一時より親鸞聖人御命日法要がございます。どなた様もお気軽に参加下さい。



第十二回世界同朋大会 申し込み受付中

今年、八月二十七日、二十八日は、ヒルトンロサンゼルス ユニバーサルシティ及びロサンゼルス別院を会場に『第十二回世界同朋大会』が開催されます。

この大会には、日本、ハワイ、そして南米から東本願寺の同朋（親鸞聖人の教えを聴く友だち）およそ三百八十人が集まります。是非この大会にご参加いただき、各地域の方々と交流を深め友達になっただきたいと思っております。英語の場合はインターネットでの申し込みとなります。 online.jtbusa.com/GRP/DOBO/ 日本語での申し込みを希望の方は、寺務所に申し込み用紙がございます。

別院の護持会費（年会費）を納めておられる方は3月末まで二五〇ドルの参加費が二〇〇ドルになります。別院にお申し込みください。この優先参加申し込みについては数に限りがありますのでお早めに申し込みください。同朋大会についての質問は監督部 (213-621-4064) まで。

永代経法要と 新年紹介

二〇一六年の永代経法要にはたくさんの方がお寺に集い、亡き別院メンバーを偲びました。そして幡ピーター開教使による英語の法話、今原ポール先生による日本語の法話がございました。

法要後は、モントレーパークのクワイエットキャノンにて、昼餐会と総会が開けられました。伊東輪番の挨拶の後、池田理事長により総会が開かれ、幡開教使、原田クレイグ氏、金本ゲリー氏から、事業報告、決算報告、二〇一六年度新役員がそれぞれ発表されました。

別院勤続二十年の柏原スーザンさん、ルンビニ保育園勤続三十年二町レスリー先生に表彰盾と記念品が贈呈されました。また輪番と理事長よりボランティアの方々に感謝の意が表されました。

その後、大谷学苑による「さくらさくら」「タイニイブツダ」「That's What

Friends are For」が披露され会場は暖かい雰囲気になりました。

そして司会の伊東信さんにより、今のリトル東京に別院が建設された四十年前の懐かしい写真のスライドショーと一九七〇年代当時に関するゲームを楽しみました。ボランティアの皆様のご協力を持ちまして素晴らしい昼餐会となりました。ありがとうございました。



(最後の一息
1 ページからの続き)

動的な言葉であったな、と思われま。

あるがままに生きるとは簡単では無い。無我と云うて自分を素っ裸にするのも怖いね。自分のオムツが冷たいと人に言えるのは勇気がいるし怖いね。皆んなと一緒に

事がすぎだつた斉藤輪番はすごいお方だつたんだね。あるがままに生きていた彼だつたんだね。

なぜ私は親鸞の言葉に魅せられるのだろうか。なぜ歎異抄の言葉に引き付けられるのだろうか。

そんな事を考えていると、親鸞とはどんな人物なのか、どんな顔をしておられるのだろうか。それで、一回お顔をよくよく拝見してみたいと思つていました。東本願寺京都本山の一番大きな建物を御影堂(ごえいどう)

といいます。その中心に安座されておられるのが親鸞の像で、御真影(ごしんねい)と呼ばれています。始めて御影堂に入つた時、ゆつくりと、じつくりとお顔を拝見しようと思つて、出来るだけ近くによつて見ました。

その親鸞はとても怖い顔をしておられる、どうしてだろうか。私は心を見抜かれたのか、背筋に寒けが走りま。

少しぐらい的微笑が観じられてもいいのじゃないのか。でも今思えば、本当の自分の愚かさを隠そうとしていた私は始めから見抜かれていたのだった。

親鸞はご自分を素っ裸にして見せてくれていて、そこに私は引き付けられていたのだろうか。ご自分のことを、愚か者とか悪人という、どうしてこんな表現をなさつておられるのか。

また親鸞は、石、かわら、つぶてのような、われらなりとおつしやつている。ご自分をも含めて、何の役にもたたない、小石とか、こわれた瓦だといつておられる。そんな私たちに阿弥陀仏の本願は届いている。それはお念仏する私たちは阿弥陀仏の御心と一つである。それを親鸞は石、かわら、つぶてのよ

うな私たちを黄金に変えて下さる弥陀の働き掛けがある。それを親鸞は不

可思議な光りと表現されておられる。私の人生の終りには、ただ「ありごさいました」と言つて終えたい。でもどんな死に方をするかは、わからない。何時になるのかも、わからない。そのときに「ありがたい」といえる状態であるのかもわからない。未来はわからないことだからです。でも一つだけ、確かな事は、今、私が毎日の生活の中で何時も「ありがたい」と言えていたら、最後の一息になつた時、無意識であつても出てくれる言葉は「ありがたい」と思っています。それがお念仏として出てくると思います。お念仏からいたたくものは安堵感であり、深い安らぎです。

それは毎日があるがままに気楽にナンマダブ「ありがとう」と生きればいい。ナンマダブ、ナンマダブ

